

■各種素材別耐薬品性能一覧

■ポリプロピレン・PP

◎：全くあるいはほとんど影響がない。

△：なるべく使用しないほうがよい。

○：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える。×：大きく影響があるため、使用に適さない。

	薬品名	濃度重量%・温度℃			薬品名	濃度重量%・温度℃	
無機酸	亜硫酸	10・RT	◎	有機溶剤	アノン=シクロヘキサン		—
	塩酸	10・RT	◎		アミルアルコール		○
	塩酸	20・RT	◎		アミルナフタリン		○
	塩酸	20・80	○		安息香酸ベンジル		—
	塩酸	38・RT	◎		イソオクタン		—
	王水		△		イソブチルアルコール		◎
	過塩素酸		△		イソプロピルアルコール		◎
	クロム酸	2・70	○		イソプロピルエーテル		○
	クロム酸	5・70	○		エーテル(ジエチルエーテル)		—
	クロム酸	10・70	△		エタノールアミン		○
	クロム酸	25・70	×		エチルアルコール(エタノール)		○
	クロロスルホン酸		×		エチルエーテル=ジエチルエーテル		—
	酸洗液	硝酸20%+フッ酸4%	◎		エチルセルロース		◎
	酸洗液	硫酸40%+硝酸15%	◎		エチルベンゼン		△
	次亜塩素酸		◎		エチレンオキサイド		—
	シアン化水素酸		◎		エチレングリコール		◎
	臭化水素酸	20・RT	◎		エチレン glycol ヒドリン		△
	臭化水素酸	20・70	◎		エチレンジアミン		○
	臭化水素酸	37・RT	◎		エピクロルヒドリン		—
	硝酸	10・RT	◎		塩化エチル		△
	硝酸	10・70	○		塩化ベンジン		—
	硝酸	30・RT	○		塩化メチル		△
	硝酸	30・70	△		塩素化溶剤		×
	硝酸	発煙・RT	×		オクチルアルコール		◎
	硝酸	61.3・RT	△		オレイン酸		○
	炭酸		○		カルビトール		—
	ひ酸		◎		ギ酸	25・RT	◎
	ふっ化けい酸		◎		ギ酸	50・RT	◎
	ふっ化水素酸	10・RT	◎		ギ酸	90・RT	◎
	ふっ化水素酸	20・RT	◎		キシレン		△
	ふっ化水素酸	40・RT	◎		クエン酸		◎
	ふっ化ほう素酸		◎		グリセリン		◎
	ほう酸		◎		クレゾール		○
	無水ふっ化水素酸		◎		クロロアセトン		△
	硫酸	10・RT	◎		クロロトルエン		△
	硫酸	10・70	◎		クロロナフタリン		—
	硫酸	30・RT	◎		クロロホルム		×
	硫酸	30・70	◎		ケイ酸エステル		—
	硫酸	98・RT	△		けい酸エチル		—
	硫酸	発煙・RT	△		酢酸	10・RT	◎
	りん酸	50・RT	◎		酢酸	50・RT	○
	りん酸	50・70	◎		酢酸	50・70	△
	りん酸	75・RT	◎		酢酸	100・RT	△
無機アルカリ	アンモニア(無水)		◎		酢酸アミル		△
	アンモニアガス	冷	—		酢酸イソプロピル		△
	アンモニアガス	熱	—		酢酸エチル		△
	液体アンモニア		○		酢酸セルソルブ		—
	カ性ソーダ(水酸化ナトリウム)	10・RT	◎		酢酸ブチル		△
	カ性ソーダ(水酸化ナトリウム)	30・RT	◎		酢酸プロピル		△
	カ性ソーダ(水酸化ナトリウム)	30・70	○		酢酸メチル		△
	水酸化アンモニウム(アンモニア水)	28%	◎		サリチル酸		◎
	水酸化カリウム		◎		酸化ジフェニル		—
	水酸化カルシウム		◎		ジイソプロピルケトン		△
有機溶剤	水酸化バリウム		◎		ジエチルエーテル		△
	水酸化マグネシウム		◎		ジエチルセパケート		△
	ヒドラジン		—		四エチル鉛		○
	アクリル酸エチル		—		ジエチレングリコール		◎
	アクリル酸ブチル		△		四塩化炭素		×
	アクリロニトリル		—		ジオキサン		—
	アセチレン		◎		ジオクチルセパケート		○
	アセトアミド		○		ジオクチルフタレート		○
	アセトアルデヒド		○		シクロヘキサノール		○
	アセト酢酸エチル		—		シクロヘキサノン(アノン)		△
	アセトフェノン		—		シクロヘキサン		△
	アセトン		△		ジクロロベンゼン		△
	アニリン		△				

RT：室温

※特にことわりのない限り水溶液の濃度は飽和状態です。

※耐薬品性一覧表は、あくまでも目安としての参考値ですので、実際のご使用は試験片などによる実用試験でご確認の上ご使用下さい。

■各種素材別耐薬品性能一覧

■ポリプロピレン・PP

- ◎：全くあるいはほとんど影響がない。 △：なるべく使用しないほうがよい。
○：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える。×：大きく影響があるため、使用に適さない。

	薬品名	濃度重量%・温度℃		薬品名	濃度重量%・温度℃	
有機溶剤	ジフェニル	—	有機溶剤	無水酢酸	—	○
	ジブチルエーテル	△		メタクリル酸メチル	—	△
	ジブチルフタレート	○		メチルアルコール	—	○
	脂肪酸	△		メチルイソブチルトン	—	△
	ジメチルアニリン	—		メチルエチルケトン	—	△
	ジメチルホルムアミド	△		メルカプタン(チオアルコール)	—	—
	しゅう酸	◎		モノクロル酢酸	—	○△
	シュウ酸エチル	—		リノレン酸	—	◎
	酒石酸	◎		りんご酸	—	◎
	スチレン	○		亜硝酸アンモニウム	—	◎
	ステアリン酸	◎		アスファルト	—	◎
	ステアリン酸ブチル	—		アニリン染料	—	◎
	セロソルブ	△		亜麻仁油	—	◎
	炭酸ガス(液体炭素)	◎		亜硫酸ガス	—	◎
	タンニン酸	◎		亜硫酸ナトリウム	—	◎
	テトラクロロエタン	△		硫黄	—	◎
	テトラヒドロフラン	△		液化石油ガス	—	◎
	テトラリン	△		液体塩素	—	×
	トリアセチン	—	その他(油類・その他)	塩化(第二)水銀	—	◎
	トリエタノールアミン	○		塩化(第二)鉄	—	◎
	トリクレジルホスフェート	—		塩化亜鉛	—	◎
	トリクロロエチレン	△		塩化アルミニウム	—	◎
	トリブチルホスフェート	—		塩化アンモニウム	—	◎
	トルエン(トリオール)	△		塩化イオウ	—	◎
	ナフタリン	◎		塩化カリウム	—	◎
	ナフテン酸	◎		塩化カルシウム	—	◎
	二塩化エチレン	○		塩化第二錫	—	◎
	二塩化メチレン	△		塩化第二銅	—	◎
	二酸化エチレン	○		塩化チオニル	—	×
	ニトロエタン	×		塩化ニッケル	—	◎
	ニトロプロパン	×		塩化バリウム	—	◎
	ニトロベンゼン	△×		塩化マグネシウム	—	◎
	ニトロメタン	×		塩素ガス(乾)	—	△
	乳酸	◎		塩素ガス(湿)	—	△
	パークロルエチレン	△		ASTMオイル NO.1	—	○
	ハイドロキノン	◎		ASTMオイル NO.2	—	○
	パルミチン酸	◎		ASTMオイル NO.3	—	○
	ピクリン酸	○		オゾン	—	—
	ピネン	—		オリブ油	—	○
	ピペリジン	—		過酸化水素 5・RT	—	◎
	ピリジン	—		過酸化水素 5・50	—	◎
	フェニルヒドラシン	—		過酸化水素 30・RT	—	◎
	フェノール(石炭酸)	—		過酸化ナトリウム	—	◎
	ブチルアルコール(ブタノール)	—		ガソリン	—	○
	ブチルセルソルブ	—		過ホウ酸ナトリウム	—	◎
	フラン、フルラン	—		過マンガン酸カリウム 10・RT	—	◎
	フルフラール	×		過硫酸アンモニウム	—	◎
	113フレオン	—		きり(桐)油	—	◎
	114フレオン	—		グリース	—	△
	11フレオン	—		クレオソート油	—	—
	12フレオン	—		ケロシン(灯油)	—	△
	21フレオン	—		現像液(ハイボ)	—	◎
	22フレオン	—		鉱油	—	○
	プロピルアルコール	○		酢酸亜鉛	—	◎
	フロロベンゼン	△		酢酸アルミニウム	—	◎
	ヘキサアルデヒド	—		酢酸カルシウム	—	◎
	ヘキサン	△		酢酸鉛	—	◎
	ヘキシルアルコール	○		酢酸ニッケル	—	◎
	ベンジルアルコール	—		酸素	—	◎
	ベンジルエーテル	△		次亜塩素酸カルシウム[高度さらし粉]	—	◎
	ベンズアルデヒド	△		次亜塩素酸ナトリウム 5・RT	—	◎
	ベンゼン(ベンゾール)	△		次亜塩素酸ナトリウム 5・70	—	○
	ほう酸アミル	○		シアン化銅	—	◎
	ホルムアルデヒド(ホルマリン)	40・RT		シアン化ナトリウム	—	◎
	マレイン酸	◎		塩水	—	◎

RT：室温

※特にことわりのない限り水溶液の濃度は飽和状態です。

※耐薬品性一覧表は、あくまでも目安としての参考値ですので、実際のご使用は試験片などによる実用試験でご確認の上ご使用下さい。